

年頭初歩き

延岡近郊探訪

恒例の年頭初歩きは一月五日延岡市近郊の史跡探訪を行った。あいにくの小雨の中を参加者二十三名（一名欠席）を乗せたマイクロバスは快調に一路南下、九時四十五分第一見学地無鹿入口に着く。

待ちうけていて下さった延岡史談会幹部の案内で早速無鹿の大夫宗麟陣屋跡へ。

日向遠征の大夫宗麟本陣跡は訪う人もないらしく、冬枯れの小笹や雑草でおおわれていた。まさにつわものどもの夢の跡である。

これから各地を見学したが、各地で宗麟に寺社を焼き払われたとか、土持氏が攻め滅ぼされたとか話を聞く。遠い昔の出来事ではあるが、宗麟は延岡では歓迎されない人物であり、この事を聞かれわれ大分県人は何だかすまない気持になる。

井上城跡——大貫石郭式横穴古墳——西階城跡——岩熊井堰——貝の畑五輪塔群——本東寺——松尾城跡——城影寺——台雲寺と延岡史談会が要点を押え、順序よく

組み替えて下さったコースに従って見学する。幸い小雨で時々太陽も顔を出し、見学には殆ど支障がなかった。

延岡史談会員の説明は微に入り細に入り、本東寺や台雲寺ではお茶のもてなしも受けた。

見学地について記すべきことは多いが、紙数の関係で二三について略記する。

土持氏一〇〇余年の居城井上城は、高さ六六呎の平山城である。現在は緑地計画を推進しているとのことであるが、すでに公園化され、長い石段には木の葉一枚も落ちていない程、はき清められているのには驚いた。

松尾城は五〇呎の平山城で、大夫宗麟に滅ぼされるまでの約一三〇年間、代々土持氏の居城であった。茅草が生い茂った本丸跡には、石碑に交って歌碑がある。

跡とへば松尾のふるきものなのふの
駒のくつわの虫のみぞ鳴く

延岡史談会は、社会教育センターに一室を与えられ、事務局を置いているという。羨しい限りである。

延岡史談会の親切に、感謝と暖かい友情を胸に、一同さわやかに楽しく帰途につく（塩月）